



ルータの起動

ハードウェアの設置後、ルータを起動します。XRLXCのコンソールポートに接続し、ルータの電源をオンにします。ルータは、プリインストールされたオペレーティングシステム（OS）イメージを使用してブートプロセスを実行します。ルータ内に使用できるイメージがない場合は、iPXE ブートまたは外部のブート可能な USB ドライブを使用してルータを起動できます。

起動が完了したら、root ユーザ名とパスワードを作成します。その組み合わせを使って XR LXC コンソールにログインするとルータプロンプトが表示されます。XRLXC コンソールからシステム管理 LXC コンソールにアクセスして、システム管理設定を行います。

- [ルータの起動, 1 ページ](#)
- [root ユーザ クレデンシャルの設定, 2 ページ](#)
- [システム管理 LXC コンソールへのアクセス, 3 ページ](#)
- [管理ポートの設定, 4 ページ](#)
- [NTP サーバとのクロック同期の実行, 6 ページ](#)

ルータの起動

新しいルータに接続するには、ルート プロセッサ（RP）のコンソールポートを使用します。コンソールポートはデフォルトで XR LXC に接続されます。必要に応じて、設定済みの管理ポートを通じてさらに接続を確立できます。

ステップ 1 RP のコンソールポートに端末を接続します。

ステップ 2 ワークステーションで端末エミュレーションプログラムを起動します。
コンソールの設定は、ボーレート115200 bps、パリティなし、ストップビット2、データビット8です。

ステップ 3 ルータの電源を投入します。

電源コードを電源入力モジュール（PEM）に接続してルータを起動します。端末エミュレーションプログラムのコンソール画面に、ブートプロセスの詳細が表示されます。

ステップ 4 Enter を押します。

root-system ユーザ名の入力を求めるプロンプトが表示されたらブートプロセスは完了です。プロンプトが表示されない場合は、ルータの初期ブート手順が完了するまでしばらく待ってから Enter を押してください。

重要 ブートプロセスが失敗する原因として、ルータにプリインストールされているイメージが破損していることが考えられます。この場合は、外部のブート可能な USB ドライブを使用してルータを起動できます。

次の作業

root ユーザ名およびパスワードを指定します。

root ユーザ クレデンシャルの設定

ルータの初回起動時に、root クレデンシャル（ユーザ名とパスワード）の設定を求めるプロンプトが表示されます。これらは、XRLXC (root-lr) コンソールおよびシステム管理 LXC (root-system) の root ユーザ クレデンシャル、およびディザスタリカバリのクレデンシャルとして設定されます。

はじめる前に

ブートプロセスを完了する必要があります。ブートプロセスの開始方法については、次を参照してください。 [ルータの起動](#), (1 ページ)

手順の概要

1. Enter root-system username:username
2. Enter secret:password
3. Enter secret again:password
4. Username:username
5. Password:password
6. (任意) show run username

手順の詳細**ステップ 1** Enter root-system username:username

root ユーザのユーザ名を入力します。文字数制限は 1023 文字です。この例では、root ユーザの名前は「root」です。

重要 指定したユーザ名は、XRLXC の「root-lr」グループにマッピングされます。また、システム管理 LXC の「root-system」ユーザとしてもマッピングされます。

ルータの初回起動時またはイメージの再作成後は、ルータにユーザ設定がありません。この場合、ルータによって「root-system ユーザ名」を指定するように要求されます。ただしすでにルータが設定されている場合は、ステップ 4 で説明したように「ユーザ名」の入力を求めるプロンプトが表示されます。

ステップ 2 Enter secret:password

root ユーザのパスワードを入力します。文字数制限は 253 文字です。セキュリティ上の理由から、入力したパスワードは CLI に表示されません。

root ユーザにはスーパーユーザ権限があるため、root ユーザ名とパスワードは保護する必要があります。これはルータ設定全体へのアクセスに使用されます。

ステップ 3 Enter secret again:password

root ユーザのパスワードをもう一度入力します。パスワードは、前のステップで入力したパスワードと一致しないと拒否されます。セキュリティ上の理由から、入力したパスワードは CLI に表示されません。

ステップ 4 Username:username

XR LXC コンソールにログインするため、root-system ユーザ名を入力します。

ステップ 5 Password:password

root ユーザのパスワードを入力します。正しいパスワードを入力するとルータのプロンプトが表示されます。これで XR LXC コンソールにログインできました。

ステップ 6 (任意) show run username

ユーザの詳細を表示します。

```
username root
group root-lr
group cisco-support
secret 5 $1$NBg7$fHs1inKPZVvzqxMv775UE/
!
```

次の作業

- XR LXC からルーティング機能を設定します。
- システム管理プロンプトでシステム管理設定を行います。システム管理プロンプトは、システム管理 LXC コンソールへのアクセス時に表示されます。システム管理プロンプトを表示する方法については、[システム管理 LXC コンソールへのアクセス](#)、(3 ページ) を参照してください。

システム管理 LXC コンソールへのアクセス

システム管理およびハードウェア管理のすべての設定は、システム管理 LXC から実行します。

手順の概要

1. root ユーザとして XR LXC コンソールにログインします。
2. **admin**
3. (任意) **exit**

手順の詳細

ステップ 1 root ユーザとして XR LXC コンソールにログインします。

ステップ 2 **admin**

例 :

```
RP/0/RP0/CPU0:router#admin
```

システム管理 LXC コンソールにアクセスすると、ルータ プロンプトが次のように変化します。

```
sysadmin-vm:0_RP0#
```

ステップ 3 (任意) **exit**

システム管理 LXC CLI から XR LXC CLI に戻ります。

管理ポートの設定

管理ポートをシステム管理およびリモート通信に使用するには、管理イーサネットインターフェイスの IP アドレスとサブネットマスクを設定する必要があります。他のネットワーク上のデバイス（リモート管理ステーションや TFTP サーバなど）と通信する場合は、ルータのデフォルト（スタティック）ルートを設定する必要があります。

はじめる前に

- ネットワーク管理者またはシステムの設計担当者にお問い合わせ、管理インターフェイスの IP アドレスおよびサブネットマスクを入手します。
- RP の物理ポート イーサネット 0 とイーサネット 1 は管理ポートです。ポートが管理ネットワークに接続されていることを確認します。

手順の概要

1. **configure**
2. **interfaceMgmtEthrack/slot/port**
3. **ipv4addressipv4-addresssubnet-mask**
4. **ipv4addressipv4 virtual addresssubnet-mask**
5. **noshutdown**
6. **exit**
7. **routerstaticaddress-familyipv4unicast0.0.0.0/default-gateway**
8. **commit**

手順の詳細

ステップ 1 **configure**

ステップ 2 **interfaceMgmtEthrack/slot/port**

例：

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)#interface mgmtEth 0/RP0/CPU0/0
```

プライマリ RP の管理インターフェイスのインターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 3 **ipv4addressipv4-addresssubnet-mask**

例：

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)#ipv4 address 10.1.1.1 255.0.0.0
```

IP アドレスとサブネット マスクをインターフェイスに割り当てます。

ステップ 4 **ipv4addressipv4 virtual addresssubnet-mask**

例：

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)#ipv4 address 1.70.31.160 255.255.0.0
```

仮想 IP アドレスとサブネット マスクをインターフェイスに割り当てます。

ステップ 5 **noshutdown**

例：

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)#no shutdown
```

インターフェイスを「アップ」状態にします。

ステップ 6 **exit**

例：

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config-if)#exit
```

管理インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了します。

ステップ 7 **routerstaticaddress-familyipv4unicast0.0.0.0/default-gateway**

例：

```
RP/0/RP0/CPU0:router(config)#router static address-family ipv4 unicast 0.0.0.0/0 12.25.0.1
```

デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを指定して、スタティック ルートを設定します。このルートは他のネットワーク上のデバイスと通信する際に使用します。

ステップ 8 commit

次の作業

管理ポート経由でイーサネット ネットワークに接続します。端末エミュレーションプログラムで、管理インターフェイス ポートへの SSH または Telnet 接続をその IP アドレスを使って確立します。ルータに対して許可される Telnet セッションの数を設定するには、Telnet セッションを確立する前に、XR コンフィギュレーション モードで `telnet ipv4|ipv6 server max-servers` コマンドを使用します。SSH 接続の場合は、`.rpm` パッケージをルータにインストールする必要があります。パッケージインストールの詳細については、次を参照してください。 [パッケージのインストール](#)

NTP サーバとのクロック同期の実行

XRLXC とシステム管理 LXC にはそれぞれのシステムクロックがあります。これらのクロックが実際の時間とずれないように、NTP サーバのクロックと同期する必要があります。このタスクでは、XR LXC 用に NTP サーバを設定します。XR LXC のクロックを同期すると、システム管理 LXC のクロックは自動的に XR LXC のクロックと同期されます。

はじめる前に

管理ポートを設定して接続します。

手順の概要

1. `configure`
2. `ntp server server_address`

手順の詳細

ステップ 1 configure

ステップ 2 ntp server server_address

例：

```
RP/0/RP0/CPU0:router#ntp server 64.90.182.55
```

指定したサーバと同期するように XR LXC のクロックが設定されます。